



家畜伝染病の防疫対策の再徹底を！

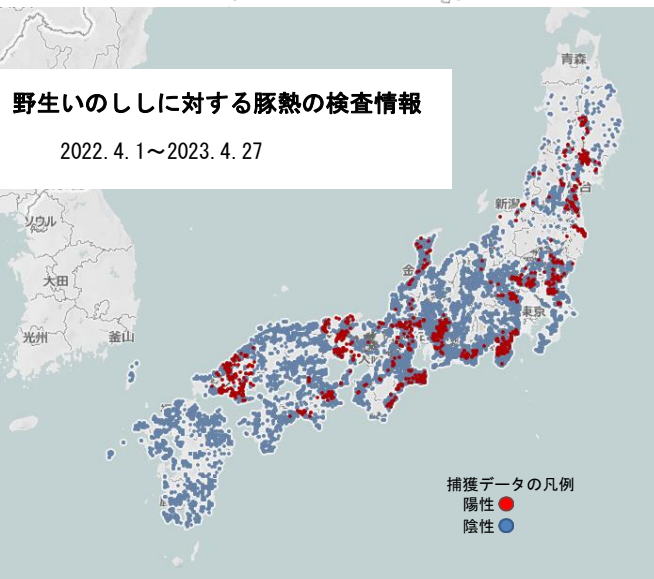
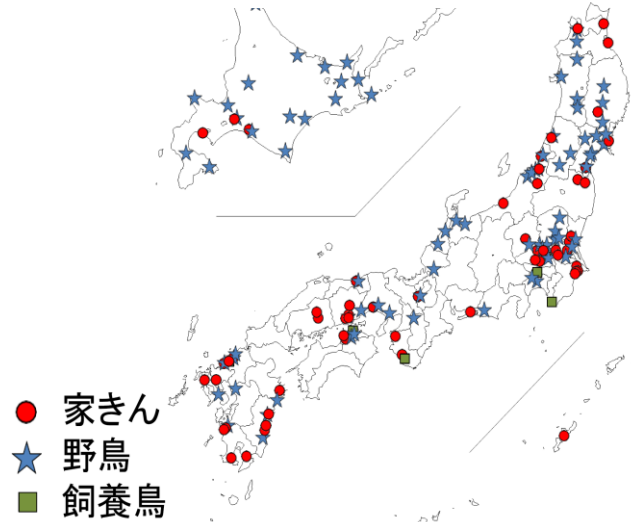
高病原性鳥インフルエンザについては、昨年10月28日以降、全国26道県84事例が確認されており、1,770万羽の殺処分と過去に類を見ない発生がありました。幸いにも熊本県での発生はありませんでしたが、他道県で4月に入ってもその発生が確認されていること、加えて昨年は5月にも発生が確認されていることから、依然として警戒が必要です。

また、豚熱については、野生いのししにおける感染が続いており、本年3月には約半年ぶりに豚飼養農場における発生が確認されています。また、山口県においても野生いのししの感染が確認されていること、加えてこれからの季節に野生いのししの活動がさらに活発化することを踏まえると、継続的な対策が重要です。

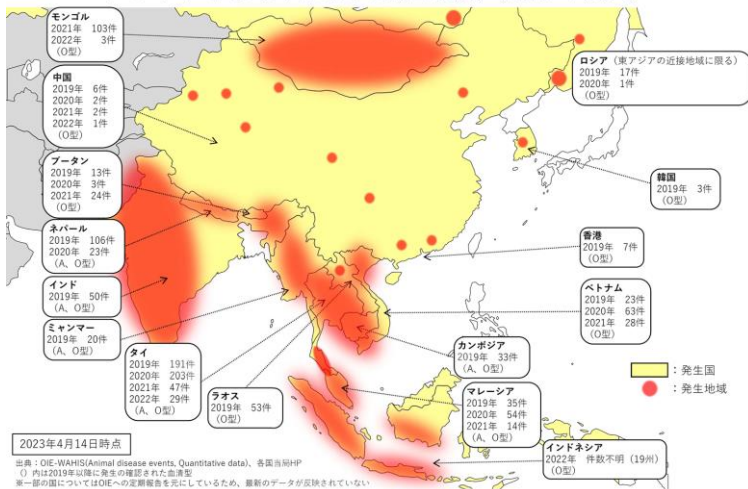
アフリカ豚熱や口蹄疫については、近隣国で発生が継続拡大しており、新型コロナウイルス感染症に関する入国規制の緩和（2022年10月）以降、我が国への入国者が急増し、入国者が携帯品として違法に持ち込もうとした豚肉製品からアフリカ豚熱ウイルスが検出されていること等を踏まえると、我が国への侵入リスクは依然として高い状況にあり、水際対策と併せて、農場における発生防止対策を徹底することが重要です。

これからさらに新型コロナウイルス感染症に関する規制が緩和されることから、警戒を緩めることなく、農場における発生予防対策をよろしく願います。

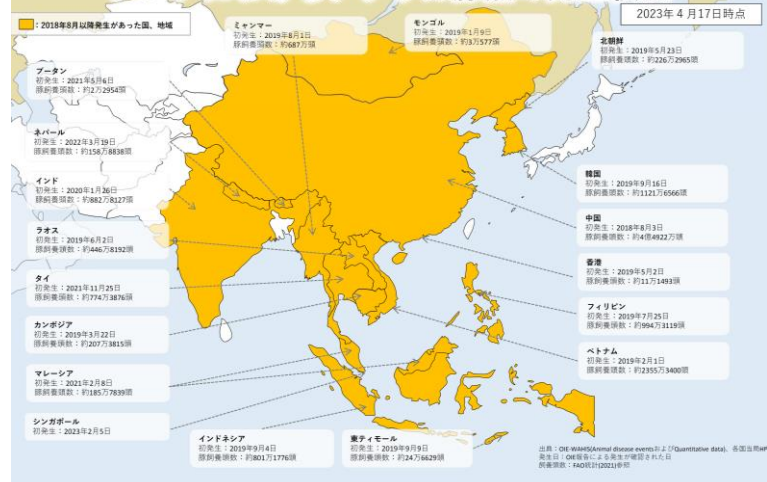
高病原性鳥インフルエンザ発生状況



アジアにおける口蹄疫の発生状況（2019年以降）



アジアにおけるアフリカ豚熱の発生状況



家畜伝染病予防法5条に基づくヨーネ病検査が今年も始まります。



乳用牛において、家畜伝染病予防法5条1項の規定に基づき、ヨーネ病の検査を5月から実施します。検査は5年ごとの実施が定められており、本年度の検査対象地域は多良木町、湯前町となっております。

対象地域の関係者の方々、検査にご協力をお願いいたします。

対象牛：6か月齢以上の乳用牛及び同居牛

検査方法：血清を用いたスクリーニング法（予備的抗体検出法：エライザ法）

検査手数料（熊本県手数料条例による）：

(1) 検査手数料：1頭につき600円

(2) 証明書手数料：1件につき430円(必要な場合)

◎ヨーネ病とは

牛、めん羊、山羊などの反すう動物に、慢性の頑固な間欠性の下痢、乳量の低下、削瘦等を引き起こす疾病で、法定伝染病に指定されています。

経口感染が主な感染経路です。感染母牛から子牛への感染が伝播経路として重要であり、同居牛への水平感染、母牛が重度のヨーネ病に罹患している場合の胎子への胎盤感染も起こります。ヨーネ病は感染してもすぐには発病せず、妊娠や分娩などのストレスが発病の誘因とされ、半年から数年後に発病します。未検査牛を導入すると見



かけ上は健康に見えますが、導入後に発症することがあり、感染を広めるおそれがあります。

※ヨーネ病に有効なワクチンや治療法はありません。

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地(国)	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	韓国	肉用アヒル	令和5年4月2日
			肉用アヒル	令和5年4月10日
		台湾	肉用アヒル(2件) 家きん(14件)	令和5年4月14日 令和5年3月~4月
アフリカ豚熱		韓国	豚	令和5年3月31日
			豚	令和5年4月14日
			野生いのしし(56件)	令和5年4月

令和5年(2023年)5月1日現在

家畜防疫員のヒトコト

天気予報が晴れでもどこかお出かけしようとするすると雨ばかりです。

晴男・晴女になる方法を教えてください。(M・Y)

